

第 34 回 中国ミニバスケットボール交歓会(鳥取大会) 出場報告書

選手たちにとってまた私にとっても初めての中国大会に、大会への大きな期待と初めての経験への不安を感じつつの参加となりました。選手たちが大会のイメージに委縮することのないよう願っていましたが、その心配は全く必要なく選手一同とてもリラックスした状態で大会に臨めました。

初日の立派な開会式を経ての予選リーグ 1 日目、1 試合目は 174cm という大会屈指の長身選手を擁するチームに対し互角の戦いを展開しましたがわずかに及ばず 1 点差の惜敗。続く 2 試合目は 10 点のビハインドを 3Q で同点に追いつくも善戦むなしく 1 ゴール差での敗戦。緊張感漂う対戦のなか、決して逃げたわけではなく戦いへの強い思いが少々空回りをした印象の 2 試合でした。そして 2 日目、ここまでお世話になった方々、応援に駆けつけてくれた家族への恩返しに自分たちが全力で戦う姿を見てもらおうと送り出した交歓試合、今大会に参加できたことが本当に良かったと思えるような素晴らしい内容で終えることができ、充実した 3 日間の幕を閉じました。選手、そして指導者も大会、試合を通じて勝敗だけではないとても貴重な経験をさせていただくことができました。大会の準備、運営をしてくださった方々、大会参加に際しご協力、ご協賛いただきました皆様、そして選手たちの活躍を温かく見守りながらバックアップをしてくれた保護者、家族の皆様にあらためて感謝し、大会出場の報告とさせていただきます。

光ウイングスミニバスケットボールスポーツ少年団

監督 桜井良二



第 34 回中国ミニバスケットボール交歓大会(鳥取大会)に参加して

光ウイングスミニバスケットボールスポーツ少年団

キャプテン 長尾 和輝

雪が心配される中、2 日間にわたる僕たちの挑戦が始まりました。

今年、中国大会で優勝した男子チームは、東京で開催される全国大会に出場出来るので僕たちもてっぺんを目指していました。

宿泊先では、みんな緊張している様子もなく楽しく過ごすことが出来ました。

試合当日、体育館に到着すると、皆をまとめなければいけない立場であるキャプテンの僕が 1 番緊張してしまいました。

そのままでむかえてしまった 1 試合目、相手チームには 170 cm を超える選手もいました。

前半は流れにのれず、後半追い上げましたが後一步及ばず 1 点差で負けてしまいました。

2 試合目も同じような展開になってしまい、1 ゴール差で負けてしまいました。

どちらの試合も僕にとって悔いの残ってしまう結果となってしまいました。

次の日の交流試合、とにかく全力を出し切ろう！！とみんなで気合いを入れ直して試合に臨みました。同じ山口県代表で出場していた牟礼中央ミニバスさん達の応援もあり、絶対勝つという気持ちがさらに強くなりました。

1 Q から苦しい試合でしたが、チーム一丸で守り、攻めて 1 勝することが出来ました。

今回の中国大会では鳥取砂丘にも行き、後輩たちと楽しく過ごすことも出来ました。

他県の強豪チームと試合もでき、本当に良い経験をさせてもらいました。

僕たちがこのような素晴らしい経験をさせてもらったのは、桜井監督、小松コーチ、貞永コーチの熱心な指導、保護者・卒団生の皆さん達の支えがあったからです。

本当に感謝しています。

この大会で得た事を活かし、残り少ないミニバス活動と中学校につなげていきたいと思えます。中学校でも一生懸命練習して、今回対戦したみなさんとまた試合出来るよう頑張っていこうと思えます。